

令和元年度10年経験者研修教科指導研修シラバス
 養護教諭専門研修

1 研修日程

(研修者：小19人、中7人、高8人)

期 日	時 間	研 修 内 容	会 場
第1日 7月24日 (水)	9:00~ 9:30	受付<総合教育センター第13・14講義室前>	総合教育センター 第13・14講義室
	9:30~ 9:40	オリエンテーション	
	9:40~12:10	【講義・演習：児童生徒の理解と支援～関係教職員との連携を通じて～】 講師 臨床心理士	第13・14講義室
	12:10~13:10	休憩	
	13:10~16:10	【講義・事例研究：対応に困難を感じた事例から考える危機管理の在り方】 講師 教育事務所指導主事	
	16:10~16:30	研修の振り返り（振り返りシート記入） 諸連絡	
第2日 7月31日 (水)	9:00~ 9:30	受付<総合教育センター第13・14講義室前>	総合教育センター 第13・14講義室
	9:30~ 9:40	諸連絡	
	9:40~12:10	【講義・演習：教育法規と学校保健関係法規の理解】 講師 保健体育課指導主事	
	12:10~13:10	休憩	第13・14講義室
	13:10~16:10	【講義・演習：健康教育の理論と実際】 講師 教育事務所指導主事	
	16:10~16:30	研修の振り返り（振り返りシート記入） 諸連絡	
第3日 8月26日 (月)	9:00~ 9:30	受付<東海学園大学名古屋キャンパス演習室前>	東海学園大学 名古屋キャンパス 演習室
	9:30~ 9:40	諸連絡	
	9:40~12:10	【講義・演習：組織マネジメントと保健室経営】 講師 大学教授	
	12:10~13:10	休憩	東海学園大学 名古屋キャンパス 演習室
	13:10~16:10	【講義・研究協議：組織的に進める健康な学校づくり～学校、家庭、地域の連携を踏まえ～】 講師 大学教授	
	16:10~16:30	研修の振り返り（振り返りシート記入） 諸連絡	

2 連絡事項（課題等）

連絡事項 (課題等)	共 通	【持ち物について】 ・「学校保健の管理と指導 改訂版 2016」 （平成28年3月 愛知県教育委員会・愛知県学校保健会発行）
	第1日	【課題及び提出について】 ・提出課題 「対応に困難を感じた事例について」 ・課題様式 課題様式1、A4判1枚 ・提出期限 令和元年7月4日（木）必着 ・提出方法 郵送または持参 3部 （当日持参 34部）
	第2日	【持ち物について】 ・「学校保健安全法 施行令・施行規則」 （平成29年3月 愛知県学校保健会・愛知県立高等学校学校保健会編集発行） ・「あいちの学校安全マニュアル 子どもの安全と安心のために」 （平成23年3月 愛知県教育委員会健康学習課発行） 【課題及び提出について】 ・提出課題 「健康教育の実践について」 ・課題様式 課題様式2、A4判1枚 ・提出期限 令和元年7月4日（木）必着 ・提出方法 郵送または持参 3部 （当日持参 34部）
	第3日	【課題及び提出について】 ・提出課題 「健康な学校づくりに向けて」 ・課題様式 課題様式3、A4判1枚 ・提出期限 令和元年7月24日（水） ・提出方法 <u>第1日持参</u> 3部 （当日持参 34部）

3 課題様式（記入例）

【課題様式1～3共通の注意事項】

- ・受講番号（8桁）については、実施要項添付の名簿を参照する。
- ・A4判縦長横書き。枚数は1枚（2ページになる時は両面印刷とする）。
- ・字の大きさは、10.5ポイント。文字数は、1行35から45文字程度、1ページ30から40行程度。
- ・章立ては、各様式を参考に作成するが、各自が必要と考える項目を削除してよい。

<課題様式1> 令和元年度養護教諭10年経験者研修 養護教諭専門研修

受講番号	2	3	0	0					※下4桁を確認。
対応に困難を感じ校内の危機管理体制等を見直したい事例について									校種（小・中・高）
【レポート作成の目的】 学校における事件や事故、災害における処置や対応で、養護教諭として困難を感じ校内の危機管理体制等を見直したいと考える事例を一つ取り上げ、その事例について共有し学び合うために作成する。 1 事例のテーマ、問題となった事柄 ※ 対応に困難を感じた点・危機管理体制を見直したい点をテーマにする。 <例 受傷したことを保護者に連絡せずに下校させた特別支援学級小5児童の対応について テニスボールで眼球打撲した中2生徒の病院移送の方法・保護者への連絡について等>									

2 事例の紹介

(1) ○○○○○○

(2)

3 このときの判断・処置・対応について（連絡・連携を含む）

4 養護教諭としての反省点・改善点等

5 学校の危機管理体制を振り返って気付くこと及び課題

【作成上の留意点】

- * レポート全般を通して、事例を共有するために「誰が（校種・学年等）いつ、どこで何をしていて、どのような状況になったか」等を簡潔に記述する。
（客観的に事例の状況が分かるように記載する。）
- * 「個人情報保護」の観点から、個人が特定できるような記述はしない。
（生徒は「A」「B」のようにアルファベット順に表記する。）
- * どこに困難を感じたのか、校内の危機管理体制のどんな点を見直したいのかが分かる内容にする。

<課題様式2> 令和元年度養護教諭10年経験者研修 養護教諭専門研修

受講番号	2	3	0	0					※下4桁を確認。
健康教育の実践について									校種（小・中・高）
【レポート作成について】 現任校で取り組んでいる健康教育についてまとめる。 実践内容をどのように学校全体の健康教育に広げていきたいのか、関連付けて記述する。									
1 取り組んだ理由									
2 取組内容									
3 成果と課題（どのような成果が得られたか、効果があった点、見直したい点などを具体的に記入）									

<課題様式3> 令和元年度養護教諭10年経験者研修 養護教諭専門研修

受講番号	2	3	0	0					※下4桁を確認。
健康な学校づくりに向けて								校種（小・中・高）	
テーマ									
<p>【レポート作成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康な学校づくり（別添資料）」を参考にして記載する。 ・健康な学校づくりに向けて、学校内外・校種間・地域の連携を図り、組織的に取り組んでいる内容について、養護教諭に求められる役割を柱として記述する。現在、取り組んでいることが特にない場合は、今後取り組みたい内容について記述する。 <p>1 私が考える健康な学校づくり（「健康な学校づくり」の意義を踏まえて）</p> <p>2 健康な学校づくりに向けて、計画的・組織的に取り組んでいること（取り組みのプロセス、組織をどのように動かしているか）</p> <p>(1) ○○○○○○</p> <p>(2)</p> <p>3 学校内外・校種間・地域とどのように連携しているか（どのようなねらいをもって連携先と連携しているか）</p> <p>(1) ○○○○○○</p> <p>(2)</p> <p>4 推進における養護教諭の役割（組織の一員として、専門職としての関わり）</p>									

4 課題送付先

- ・提出方法 ○課題様式1及び課題様式2は郵送または持参
○課題様式3は第1日{令和元年7月24日（水）}に持参する。

・送り先

〒470-0151

愛知郡東郷町大字諸輪字上鉾68番地

愛知県総合教育センター研修部基本研修室 須澤 智子 宛て

※封筒の表面左隅に「養護教諭10年経験者研修課題在中」と朱書きする。

5 問い合わせ先

担当 研修部基本研修室（須澤）

電話 0561-38-9507（ダイヤルイン）

別添資料 「健康な学校づくり」(ヘルスプロモーションスクール)とは

健康な学校づくりは、学校に関係する全ての人々(児童生徒、教職員、保護者及び地域の人々)が、児童生徒と教職員の健康をつくっていくために努力して活動を展開することである。

世界的な視野からヘルスプロモーションを見ると、アメリカ的な個人技術に焦点を絞ったライフロング・アプローチ(生涯健康生活習慣づくり)及びヨーロッパ的な生活環境に焦点を絞ったセッティング・アプローチ(健康的な生活の場づくり)の二つに分かれる。

健康に影響を及ぼす喫煙、ダイエット、そして運動不足のような生活様式は、健康的な社会化の過程で形成されるが、特に学齢期が大きな決定力をもっている。それゆえ、個人に焦点を強く絞ったヘルスプロモーションのためのライフロング・アプローチ、特に児童生徒の健康な生活習慣づくりのみに取り組んで、健康を促進し、守るといった観点からの取組も大切であることを忘れがちになってしまう傾向にある。

WHOの提案する健康な学校づくりは、健康的な生活習慣を含む幅広いヘルスプロモーションの5つの活動、すなわち①健康的な公共政策づくり、②健康を支援する環境づくり、③地域活動の強化、④個人技術の活動、⑤ヘルスサービスの方向転換を意識して展開しなければならない。

なぜなら、学校は児童生徒にとって一日の多くを過ごす生活の場である。児童生徒のヘルス・コミュニケーションのための場であることやヘルスサービスを用意するための効果的な場であることを表わしているからである。

ドン・ナットビーム教授「健康な学校づくり活動」～ヘルスプロモーションの5つの活動の視点～

- 1 制度としての学校の組織と児童生徒と教職員が共に参加することや、ヘルシー・コミュニティとしての学校の開発を支援するような学校政策(①健康的な公共政策づくり)
- 2 安全で健康的な物理的環境の創造(②健康を支援する環境づくり)
- 3 学校生活における保護者と地域社会の活発な巻き込み(③地域活動の強化)
- 4 教室での教育は、全ての学習のための基礎的な認識や、健康についての情報を児童生徒に与えること、そして情報を最適に活用するための個人技術の開発を支援すること(④個人技術の開発)
- 5 身体的健康ニーズと同様に精神的健康を認めるような精神保健(メンタルヘルス)を認識する適切なヘルスサービスへの児童生徒のアクセス(⑤ヘルスサービスの方向転換)

21世紀の学校は、児童生徒が学校や家庭そして地域において日常生活を営む中で、自分に価値を見だし、自分が生きていることや健康であることを実感し、未来に向かって自分らしく力強く生きていくための力(生きる力)を身に付けることができる学校でなければならない。

さらに言えば、児童生徒にとって、学校は「楽しい場」でなければ意味がないのである。そのような支援的な場の形成は、校長のリーダーシップと教職員のチームワークそして構成員・マネジメント力にかかっている。

「養護教諭研修プログラム作成委員会 報告書」(財)日本学校保健会 平成21年4月発行より